

F2-12

近代湘南メディカルツーリズム以降の由比ガ浜中央商店街継承プロセスに関する研究

A Study on Succession Process of Yuigahama Chuo Street after Modern Medical Tourism in Shonan Area

○倉津耕大¹, 押田佳子², 片山風花¹*Kodai Kuratsu¹, Keiko Oshida², Fuuka Katayama¹

Abstract: We investigated the succession process of stores along Yuigahama Chuo Street. As a result, it is clarified that the stores were developed through exchanges with sanatorium, villa, Kamakura writer, then declined due to the influence of the earthquake and tourism development.

1. 背景及び目的—近代の鎌倉は、1887(明治 20)年に日本初のサナトリウム(結核療養施設)となる鎌倉海浜院が創設、翌 8(明治 21)年の横須賀線開通に伴い、保養と療養のまちとして発展を遂げることとなった。中でも鎌倉海浜院など 3ヶ所のサナトリウムが近接する由比ヶ浜地域は海岸への眺望が得られるなど、立地の良さも相まって療養下宿や別荘として発展し、サナトリウム群が構成された^[1]。大正初期にはこれらを顧客とする商店により由比ガ浜中央商業協同組合が形成され、サナトリウムや別荘に出入りする御用聞きのお店が立ち並び、中には現在に至るまで継承されているものも少なくない。先行研究では、関東大震災以前は由比ヶ浜地域においてサナトリウムを中心としたメディカルツーリズムが展開されたことを確認したが、サナトリウム群撤退以降、地域に残される形となった商店が、その後、どのように地域に根ざし、継承されたかについては明らかにされていない^{[2][3]}。そこで本研究では、近代メディカルツーリズム以降の由比ガ浜中央商店街における店舗の継承プロセスを明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法—研究方法を Table1 に、ヒアリング対象として 9 店舗の概要を Table2 に示す。

3. 結果及び考察—由比ガ浜中央商店街の継承プロセスを歴史的観点より「サナトリウム群交流期」「鎌倉文

Table1 outline of the survey (調査概要) (This is original table by authors)

調査方法	文献調査	ヒアリング調査
調査期間	2018 年 5 月 11 日～ 2018 年 9 月 21 日	2018 年 7 月 2 日～ 2018 年 9 月 7 日
調査対象	江ノ電沿線文人たちの風景、文士の愛した鎌倉、鎌倉文士・前夜とその時代開館 30 周年記念特別展	鎌倉由比ガ浜中央商店街の戦前からある老舗
調査内容	鎌倉文士の歴史、まちとの係わり	商店と鎌倉文士やサナトリウム、別荘との係わり

Table2 outline of the store (調査対象店舗) (This is original table by authors)

概要	職種	創業〔年〕	ヒアリング実施日
A 店	菓子屋	1904(明治 37)	2018 年 8 月 9 日
B 店	酒屋	1913(大正 2)	2018 年 7 月 2 日
C 店	伝統工芸品	1921(大正 10)	2018 年 8 月 9 日
D 店	八百屋	1923(大正 12)	2018 年 7 月 2 日
E 店	靴屋	大正末期	2018 年 9 月 7 日
F 店	食品業	1931(昭和 6)	2018 年 8 月 9 日
G 店	酒屋	1931(昭和 6)	2018 年 7 月 9 日
H 店	理容店	1933(昭和 8)	2018 年 8 月 9 日
I 店	菓子屋	戦前	2018 年 7 月 9 日

1 : 日大理工・学部・まち、2 : 日大理工・教員・まち

士交流期」「商店街自立期」の 3 期に分類した。この結果を Table3 に示す。以降は各期の特徴について述べる。

3-1. サナトリウム群交流期(1884~1922 年)—1887(明治 20)年、我が国のサナトリウム第一号となる鎌倉海浜院が設立され、入院費が非常に高額であったことから上流階級のみが利用していた^[1]。そのため、別荘や療養下宿が建設された^[2]。患者の多くは高所得者層であったことより、由比ヶ浜地域には洋菓子店や牛乳屋、土産物として重宝される鎌倉彫などの店が立ち並ぶようになった。また、当時の商店はサナトリウムや別荘に御用聞きで訪れるのが主流であり、魚屋や酒屋などは午前中には店舗に人がいない状態であった。以上より、この時期はサナトリウム群との直接的な交流から由比ガ浜中央商店街設立に至った時期といえよう。

3-2. 鎌倉文士交流期(1923~1961 年)—1923(大正 12)年の関東大震災に伴い、鎌倉海浜院が焼失並びに多くの別荘利用者が転出した。これに代わり鎌倉文士と呼ばれる文化人が鎌倉に転入、貸別荘等を利用するようになり、その使用人が商店街を訪れるようになった^[4]。1933(昭和 8)年に鎌倉ペンクラブが創設されると鎌倉文士による活動はさらに活発化し、1934(昭和 9)年、ペンクラブ初代会長の久米正雄主催による鎌倉カーニバルが開催された^{[4][5]}。これにはスポンサーとして多くの大手企業が協力し、かつ若宮大路から由比ガ浜中央商店街という鎌倉のメインストリートを通ったことにより、多くの人で賑わった。また、商店街には鎌倉にあった映画館 2 軒のうちの 1 つである鎌倉劇場があったことより日常的に人々が訪れていた^[6]。1954(昭和 29)年には、鎌倉で最初の法人格を持った鎌倉由比ガ浜中央商業協同組合(後の NPO 法人)が設立され、商店街全体が組織化された^[7]。以上より、この時期は鎌倉文士との交流によって商店街が鎌倉文化の中心となった時期といえよう。

3-3. 商店街自立期 (1961 年以降) —1961(昭和36)年に会費の滞納者が多かったことにより、鎌倉ペンクラブが解散し、先述の鎌倉劇場の焼失や鎌倉カーニバルが終了したことで、由比ガ浜中央商店街を訪れる来訪者が激減した^{[6][8]}。加えて、観光開発が進行した鎌倉駅方面から徐々に老舗が閉店し、1961(昭和36)年に 100 軒近くあった商店が、66 軒まで減少した (Figure1, Figure2)。現在残っている店舗においても跡継ぎ等の問題から、存続が困難なものも少なくない。以上より、鎌倉ペンクラブ解散や鎌倉劇場の焼失など文化的交流拠点が失われ、鎌倉文士との交流が途絶えたことから商店街が自立した時期といえよう。

4. まとめ—本稿では、近代メディカルツーリズム以降の由比ガ浜中央商店街はサナトリウム群交流期及び鎌倉文士交流期には商店街に係わる他者の協力を得る形で発展したことが捉えられたが、その後これらが途

絶えたことにより、地域で自立する上で鎌倉の観光発展から切り離される形となり、商店街独自のまちづくりを考えざるを得ない状況になったことを捉えた。一方で、由比ガ浜中央商店街は現代観光における拠点である鎌倉駅と同じく重要観光資源が集中する長谷を結ぶ通りであることより、かつてあった地域と観光の繋がりを見直すことで鎌倉海岸地域のメインストリートとしての復活が望めるであろう。

5. 参考文献

[1]高三啓輔,「サナトリウムの残影—結核の百年と日本人」,日本評論社, pp.18-29,2014.1.15.[2]押田佳子ほか3名,「湘南サナトリウムにおける近代メディカルツーリズムに関する研究—(その1)南湖院設立に伴う茅ヶ崎の発展に着目して—」,平成28年度日本大学理工学部学術講演会論文集,CD-R,2016.[3]安齋七風ほか3名,「湘南サナトリウムにおける近代メディカルツーリズムに関する研究—(その2)南湖院設立に伴う茅ヶ崎の発展に着目して—」,平成28年度日本大学理工学部学術講演会論文集,CD-R,2016.[4]岩田光正,「文士の愛した鎌倉」,JTB, pp46-47,1997.9.1.[5]鎌倉市芸術文化振興財団・国際ビルサービス共同事業体,「鎌倉文士・前夜とその時代:開館30周年記念特別展」,鎌倉市芸術文化振興財団国際ビルサービス共同事業体, pp20-21,2015.10.[6]金子晋,「江ノ電沿線 文人たちの風景」,江ノ電沿線新聞社, pp.98-99,1990.4.1.[7]鎌倉市市民活動センターHP <http://npo-kama.sakura.ne.jp/ce/index.html>, 2018.9.18.[8]鎌倉ペンクラブ HP <http://kamakurapen.club/>,2018.9.18.

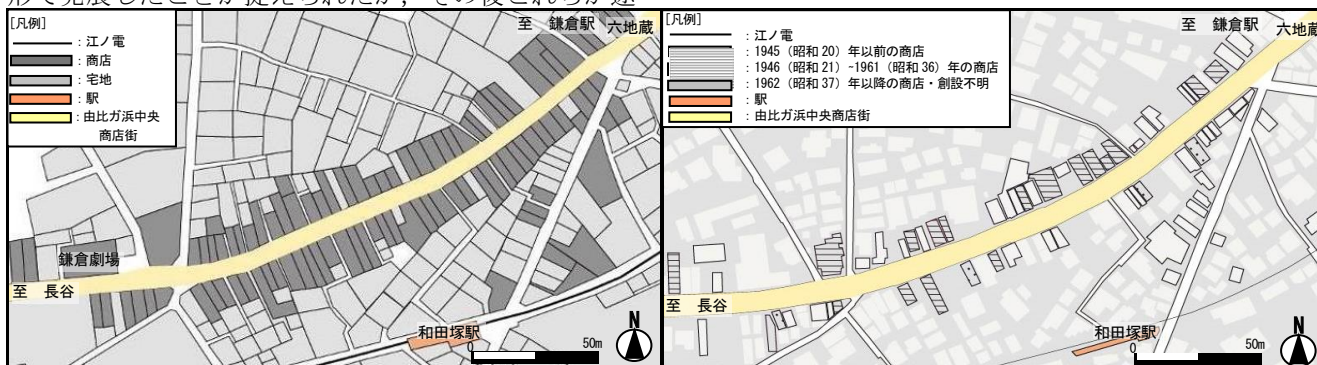


Figure1 Map of Yuigahama Chuo street in 1961 (1961年の由比ガ浜中央商店街の地図) Figure2 Map of Yuigahama Chuo Street in 2018 (2018年由比ガ浜中央商店街の地図)
Table3 Succession Process of Yuigahama Chuo Street (由比ガ浜中央商店街の継承プロセス) (This is original table by authors)

	西暦/和暦[年]	由比ガ浜中央商店街の動き	鎌倉文士の動き	主な出来事	備考
サナトリウム群交流期	1884/M17		長与専斎が由比ガ浜に別荘を作る	鎌倉海浜院(サナトリウム)設立	別荘に配達をしていた(A店)
	1887/M20			横須賀線開通	魚屋などは御用聞きに別荘を訪れていた(C店)
	1888/M21			鎌倉海浜院がホテルに変更する	
	1900/M33			鎌倉病院 設立	
	1904/M37	菓子屋(A店) 開業		江ノ電藤沢-小町間全線開通	商店が動いていた時代(F店)
	1910/M43	酒屋(B店) 開業			お土産に鎌倉彫を持って帰っていた(C店)
	1913/T2	鎌倉由比ガ浜中央商業協同組合 形成			まだ舗装がされていない時は多くの馬が通っていた(D店)
	1916/T5		芥川龍之介が海浜ホテル横の野間西洗濯店離れに下宿 萩原朔太郎が坂ノ下海月楼に移る	鎌倉海浜ホテル 改名	
	1917/T6			鎌倉劇場 開店	
	1920/T9			額田病院 設立	
鎌倉文士交流期	1921/T10	伝統工芸品屋(C店) 開業	大佛次郎が教師となり由比ヶ浜に住む		
	1923/T12	八百屋(D店) 開業	大佛次郎が長谷に転居	関東大震災	鎌倉文士の本人が商店街を訪れるようになる(F店)
	1925/T14		久米正雄が大町に転入 吉野秀雄が七里ガ浜や長谷で療養		カーニバルやぼんぼり祭りを主催したのは鎌倉文士である(H店)
	1926/T5	酒屋(E店) 開業	小林秀雄が長谷に転入	湘南サナトリウム 設立	
	大正末期	食品業(F店) 開業, 酒屋(G店) 開業			
	1933/S8	理容店(H店) 開業	林房雄が長谷に転入	第一次鎌倉ペンクラブ創設, 会長 久米正雄が就任 第一回鎌倉カーニバル 開催	鎌倉カーニバルは鎌倉文士の影響で大手企業がスポンサーになっていた(H店)
	1934/S9				
	戦前	菓子屋(I店) 開業			第二次世界大戦後男手が不足し, 酒屋から靴屋に業態を変えた(E店)
	1939/S14		吉屋信子が大仏裏に別荘を建てる	鎌倉カーニバル 中止	
	1944/S19		吉屋信子が長谷に転入		
	1945/S20	E店が酒屋から靴屋に変える	島木健作 死去	鎌倉海浜ホテル 焼失 第二次世界大戦 終戦	当時の唯一の娯楽であった映画館が由比ガ浜中央商店街にあったこともあり, 栄えていた(H店)
	1946/S21		川端康成が長谷264に移る	鎌倉アカデミア 開校	
	1947/S22			鎌倉カーニバル 復活	
	1950/S25		立原正秋が大町2124に移住	鎌倉アカデミア 閉校	商店街に活気があり, ほかの商店街が行ったイベントなどを取り入れ, 多くのイベントを行っていた(E店)
1952/S27		久米正雄 死去			
1954/S29	鎌倉由比ガ浜中央商業協同組合 法人化		鎌倉ペンクラブの会長 里見弾が就任		
商店街自立期	1961/S36			第一次鎌倉ペンクラブ 解散 鎌倉劇場 焼失	由比ガ浜中央商店街の中では鎌倉駅から老舗が潰れた(D店)
	1962/S37		吉屋信子が長谷1丁目に新居を建てる	鎌倉カーニバル 終了	
	2018/H30	菓子屋(I店) 閉店			

[凡例] M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成